令和5年度(2023年度) 学校評価総括表　　【伊丹市立南小学校】

教育目標	校訓「強い体に きれいな心」　『自ら考え 認め合い つながる子』　～自分だいすき 友だちだいすき 学校だいすき～
重点目標	全ての子どもの幸せのため あらゆる組織的な取り組みで 積極的に いじめ見逃しゼロ新規不登校ゼロをめざす！ 特別支援教育の視点を大切にし 脅威にならない 安心して過ごせる 居場所のある学校をめざす！

主要施策	施策目標 基本施策		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①『自ら考える子』 ②互観授業の活性化 ③南小あるある「できる数人の子との授業」の打破 ④学校運営協議会との連携	①自分で考える時間を確保しつつ、考えを書いたり、それを元に交流したりする時間を確保する。 ②互観授業の昨年度の取り組みである「互観授業週間」を継続して実施する。 ③研究テーマの「つながり」を意識した授業づくりを実施する。 ④九九ボランティアを継続的に実施する。	①児童アンケート「自分の考えを伝えることが好きだ」80パーセント以上。 ②互観授業の活性化の実態 ③児童アンケート「友だちに伝えたり、友だちから聞いたりする活動が好きだ」80%以上。「授業はわかりやすい」80%以上 ④九九の暗唱	B	①児童アンケート「自分の考えを伝えることが好きだ」77%。昨年度より10%増。 ②「勝手に研究授業」や「教室フルオープン」を実施し、互観できる環境を設定することにより、気軽に互いの教室を出入りできるようにした。 ③児童アンケート「友だちに伝えたり、友だちから聞いたりする活動が好きだ」88%。（昨年度より5%増。）「授業はわかりやすい」95%。（昨年度より7%増。） ④地域連携という観点において、とても良い効果がある。	アンケートの結果から「伝える」よりも「聞く」方の数値が高く、自分の考えを堂々と伝えることが苦手だと感じる児童が多いことがわかる。そこで、 ・自分で考える時間の確保の拡充。 ・発表の場の確保。 ・勇気を出して発表した姿勢を価値づけ。 ・雰囲気・環境作り。	①・子どもたちが主体的に学びに向かうように積極的に取り組んでいる効果を感じられる。 ・読書の取組については、学年間で格差がある。 ・「自分の考えを伝えることが好きになるためには」教師の普段からの「聞く姿勢」「肯定的な姿勢」が必要。 ・自分で考える時間、機会の確保が必要。 ・非認知能力を育てる授業の実施が必要。 ・いろいろな改善策が打たれ、よい結果につながっている。
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①タブレットの有効活用 ②英語への興味関心を育てる。 ③デジタル化の推進計画作成	①授業や宿題で有効な使い方を探る。 ②児童の実態に合わせて活動を工夫する。 ③デジタル化するべき事項を整理し、実行していく。	①児童アンケート「学習においてタブレットは有効であると感じている」80パーセント以上。 ②単元ごとの振り返り ③来年度に向けてデジタル化が有効であるものを探り、まとめる。	B	①タブレットの破損による回収によって手元にiPadがなかなか戻ってこない児童が多く見られた。改めてiPadの扱い方を児童に周知すると共に、担当者の管理も徹底していきたい。 ②ペアワーク、グループワークを多く取り入れ、楽しみながら達成感を持てることができた。また、台湾の子どもたちとzoomで交流する活動をすることで、実りある学習へとつながった。 ③個人懇談の希望調査等、デジタル化することで教師の負担が削減されるものも明確になってきた。来年度はデジタル化に向けてgoogleを活用してデジタル化を進めていきたい。	保護者配布物のデジタル化を推進するため、 ①何をいつ頃デジタル配信するか計画を立てる。 ①全員デジタル受信できる等の調査確認。 ②今年度同様、ペアやグループ活動を充実させたい。 ③iPadの管理の徹底台帳を作成し、修理や交換等、iPadの動きが振り返って見ることができるようにする。	②・台湾との交流はよい機会となった ・デジタルリテラシーの指導の継続と充実が必要。 ・海外とZOOMで交流するなど、子どもが意欲的に楽しく学ぶ工夫がなされている。 ③・紙配布を一切なくす検討が必要ではないか。
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①議論する道徳教育 ②『認め合い つながる子』 ③「いじめ見逃しゼロ」 ④「新規不登校ゼロ」 ⑤「脅威とならない居場所作り」 ⑥体験活動のカリキュラム化	①議論できる主発問を考える。 ②まず、教員が子どものいいとこみつけを行い、つながる。 ③いじめの早期発見に努め、小さなことも共有する。そこで、南小学校では、昨年度同様、3学期にも1.2学期と同じ形式でいじめアンケートを実施している。 ④不登校の兆候を早期発見し、共有する。 ⑤「学級経営と授業は同時進行」を実践する。 ⑥体験活動のよりよい実施	①子ども同士の話し合いの充実度 ②「いいとこみつけ」の実施 ③組織的な対応の習慣化 ④別室経営の充実 ・課題の準備 ・引継ぎ事項の共有 ・人員確保 ⑤児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」80%以上。 ⑥教職員アンケート「学年に応じた体験的活動や校外学習を実施している。」80%以上。	B	①道徳の授業において、一定の成果はあった。 ②多くのクラスで、終わりの会等で「いいとこみつけ」の発表などを行った。 ③教職員アンケート「『生活指導』は、計画的・効率的に進めることができている。」の項目では、98%の方が「できている」と答えている。 組織的に対応していたが、結果として重大事態が1件発生した。 ④発覚した際は、早急に管理職や学年、生活指導担当へ報告・共有し、組織的な対応ができた。 ⑤児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」91%。前年度より11%増。 ⑥教職員アンケート「学年に応じた体験的活動や校外学習を実施している。」の項目で、98%の方が「できている」と回答。	①道徳の授業は、学年内で教材担当を分担し、交換授業の形で行い、道徳授業の活性化、生徒指導の充実、業務改善を検討してみるのよい。 ⑤「学校に行くのが楽しくない」9%の児童に対し、何が楽しくないのか、どうしたら楽しくなるのか調査し対応する。	①・いじめ、不登校の問題に対して、積極的に適切に取り組んでいる。 ・加害とされる児童への決めつけの指導は、注意が必要 ・効果的な取組がなされている。 ・高学年になるにつれて、自己肯定感の向上が課題になっている。 ・「いいとこみつけ」の取組は大変良い。今後は「多様性を受け入れられる豊かな心」を育む実践を期待する。
		「健やかな体」の育成 ①児童の体力向上の促進 ②発達段階に応じた健全な食育の推進	①運動量を保障する授業 ②運動の日常化 ③食育カリキュラムの充実	①運動の場づくりを学年共通に行う。 ②業間遊び等を活性化する。（各クラスでの推奨） ③給食指導と同時に、食育指導を行う。	①学年共通実践の充実 ②みなみんピックの拡充 ②朝休み・昼休みの確保 ③食育の日々の実践の充実	A	①各学年で、運動量を確保するための場づくりができた。 ②業間休みに、PTAの取り組みである「みなみんピック」の持久走バージョンを実施し、多くの児童が参加した。その他、放送委員には、外遊びを呼びかけてもらった。全国体力・運動能力調査（5年生）において、全項目全国平均を上回ることができた。教師自身もともに遊んだりすることで、活発に体を動かす児童がたくさんいた。 ③日々の食育実践を行ったり、低学年は給食センターからの食育指導を受けたりした。	運動調査等で、体力向上の必要性が言われていることから、 ①さらに、運動量の確保・運動の日常化につながる取り組みを考え、行う。	①・ボール遊びや体の柔軟性に課題があるのではないか。 ・全国体力・運動能力調査の結果が向上したことは、学校の取組の成果であると思うが、驚きである。来年度に予定されている工事等で、子どもたちの運動の機会に影響が出ないようにしてほしい。 ・地道な取組の成果が出ている。 ・放課後の運動場開放やみなみんピックなど、充実した環境が整っている。 ・体力向上は継続した課題。
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実		①キャリア教育カリキュラムの充実 ②SC・SSWとの連携強化 ③全ての子への声かけ充実	①キャリア教育の日常化 ②重点的に連携できる場面をつくる。 ③声かけチェックシートや記録を活用する。	①自分を見つめる力・目標をもって取り組む力の向上 ②SC来校日の木曜日に連携する。SSWの随時来校日に連携する。 ③児童アンケート「悩み不安があれば先生や友だちに相談できる」80%以上。	B	①キャリアパスポートの活用を着実に行った。 ②SCやSSWと放課後、連携することができた。 ③児童アンケート「悩みや不安があれば先生に相談できる」77%。昨年度より12%増。	①子ども一人ひとりとの対話の時間を意識して確保する。 ②誰にとっても相談しやすい環境作り。 ③聴く時の姿勢や表情、表現に留意する。	①・「学校に行くのが楽しい」の11%増は良い方向に進んでいる成果だと思います。 ・聞く気持ちが整っていない児童に対して、「小言」や説教にならないように注意が必要。 ・「6年生が学校を創るプロジェクト」は、他の人のために考え、行動することにつながり、キャリア教育につながると思う。 ・20%の子どもが「相談」しようと思っていないことが課題。
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実		①コンサルテーションの活用 ②「特別支援教育の視点を大切にする」	①定期的なコンサルテーションの活用を行う。 ②すべての教員が特別支援教育の視点を持ち、学級経営を行う。	①コンサルテーションを毎学期行う。 ②特別支援教育の研修を毎学期行う。	B	①伊丹特別支援学校担当職員による、専門的な訪問指導（コンサルテーション）を毎学期行った。学期によっては複数回実施できた。 ②特別支援教育の研修を行った。 ③支援を必要とする児童の情報を部会で共有し、空き時間の教員がサポートに入ったり、必要に応じて支援員の入り込みを変更したりした。通級や転籍が必要な児童への対応をその都度行った。 ④全ての教員のさらなる特別支援教育に関する資質向上が課題。 ⑤必要に応じて、コーディネーターが児童の様子を見に行きたい気持ちはあったが、なかなか行くことができず、思うようなサポートができなかったことが課題。	①特別支援教育の研修をさらに充実させると共に、特別支援教育の日々のOJTを学校全体で連携して行う。	①・引き続き尽力願いたい。 ・支援学級の在籍数が増加しているなか、継続的な取組をお願いしたい。 ②学校運営協議会の中でも議論すべき。
	教職員の資質向上 ①研修等の充実		①校内研究の活性化 ②校内研修の活性化 ③学年内でも人材育成	①研究授業を6本行う。 ②自主研修会を計画的に行う。 ③日々のOJTの充実	①各学年の校内研究授業を行う。 ②自主研修会「MINA－KEN」を計画的に行う。 ③互観できる取り組みとして、「教室フルオープン」を実施する。	A	①各学年と専科を合わせて合計6本の研究授業を行った。そのうち、4本は校内研、残りの3本は市内発表という形で実施した。教科はフリーとし、複数教科の授業が行われた。講師として、元筑波大学附属小学校副校長の田中博史先生に指導を受けた。 ②自主研修会「MINA－KEN」は、授業実践の方法や学級経営、生徒指導等において行った。 ③ミニ自主研究授業「勝手に研究授業」を昨年度同様実施し、多くの研究授業が行われた。 ④教師が気軽に参観できるシステムを導入することで、アドバイスをもらったり、指導法を参考にしたりする環境を整備した。お互いに刺激を受けて、授業力を高めようとする試みとして実施している。	本発表を終え、節目を迎える年となった。「主体的に学ぶ」「つながりを大切にする」授業実践に、引き続き重きを置きながら、新たな目標を掲げて進めていく。	①・十分な取組ができている。 ・「つながり」をテーマにした取組は学校教育の力を伸ばした。今後も継続と発展を願う。 ③・授業力の向上に努めていただきたい。 ・研修の報告等が保護者向けにあっても良いのではないか。 ・授業が変わってきたと印象がある。

教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	①CSの活性化 ②協働体制の活性化	①熟議の場を確保する。 ②連携できる取り組みを行う。	①学校運営協議会とコミスク会を行う。 ②複数の連携取り組みを行う。	A	①学校運営協議会は合計4回、コミスク会は学校運営協議会のない月に計画的に行った。 ②「いじめ防止標語」「県民まちなみ緑化事業」「九九ボランティア」の取り組みなど、学校の教育目標や重点課題に即した活動を行うことができた。 ③今年度は「6年生が南小をつくる」とタイアップし6年園芸ボランティアと6年九九ボランティアを行った。	不登校、いじめなど、学校だけでは解決が困難な課題にたして、さらに連携を深め、効果的な取組を進めていく。そのために本会議を中心にコミスク会などを通し熟議を重ねていく。委員に教職員を加える。	①・教職員の参加は有意義であった。 ・学校と地域がうまく連携し、子どもたちの教育環境をよく支えた。 ・「いじめ標語」「緑化事業」「九九ボランティア」「見守り活動」などの持続可能な体制づくりが課題。 ・地域、学校、家庭の3者の連携体制が整ってきた。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①防災訓練・教育の充実 ②危機管理意識の維持・向上 ③交通安全指導の充実 ④安全点検の充実 ⑤意識改革の推進	①定期的に実施する。 ②日々の安全指導の充実と事故報告の慣例化 ③日々の安全指導の充実と登下校指導の実施 ④毎月の点検 ⑤集中と計画で業務改善を自主的に行う。	①保護者アンケート「家庭で、いざという時の行動の仕方（火事・地震・不審者など）について、話し合っている」80％以上。 ②児童アンケート「くらしのルール（教室の過ごし方・廊下や階段の歩き方など）を守って生活している」80％以上。 ③児童アンケート「登下校のとき、ルール・マナー（道路の端を歩く。さわいだり、ふざけたりしない。など）を守っている」 80％以上。 ④保護者アンケート「学校は、学習・生活の場として、お子さんが活動しやすい環境(施設・設備)が整っている」80％以上。 ⑤教職員アンケート「南小学校は、職員の働き方改革の推進を行っている」80％以上。 ⑥「マイホリデー」制度導入。	B	①保護者アンケート「家庭で、いざという時の行動の仕方（火事・地震・不審者など）について、話し合っている」82％ ②児童アンケート「くらしのルール（教室の過ごし方・廊下や階段の歩き方など）を守って生活している」90％。 ③児童アンケート「登下校のとき、ルール・マナー（道路の端を歩く。さわいだり、ふざけたりしない。など）を守っている」94％。 ③下校時の歩き方、踏切の通り方等について地域の方からの苦情が数件あった。 ④保護者アンケート「学校は、学習・生活の場として、お子さんが活動しやすい環境(施設・設備)が整っている」94％。 ⑤教職員アンケート「南小学校は、職員の働き方改革の推進を行っている」92％。 ⑥今年度からマイホリデー制度を導入。良い取り組みではあるが、年度当初に割り振っておく必要がある。	③登下校の仕方は、保護者・地域と連携して継続指導する。 ④ボール遊びは、学校で行うように継続指導する。 ⑥マイホリデーは、一年間を見据えて、計画的に進めていく。	①・道徳や特別授業を実施し、自転車の乗り方の指導を強化する必要がある。 ・災害や地震発生時に子どもたちが適切に行動できるよう、学校と保護者が実際を想定した取組や意識付けが必要。 ・地域、家庭を巻き込んでの防災教育が必要。 ②・放課後に学校を開放していることはよ異ことである。 ③継続的な取組によって、下校時のルールやマナーは数年前と比べて格段に良くなっている。

学校関係者評価総括
学校全体の活力を強く感じる。学校教育目標の実践が、成果として現れている。今後も、さらにパワーアップして、開かれた学校を期待している。

次年度に向けた重点的な改善点
児童アンケートに、先生に対しての不満や信頼のなさがいくつか見受けられた。先生への信頼度を上げていく必要がある。学校も地域も人材育成に力を入れていく必要がある。

自己評価の基準　A：目標を上回った　B：目標どおりに達成できた　C：目標をやや下回った　D：目標を大きく下回った